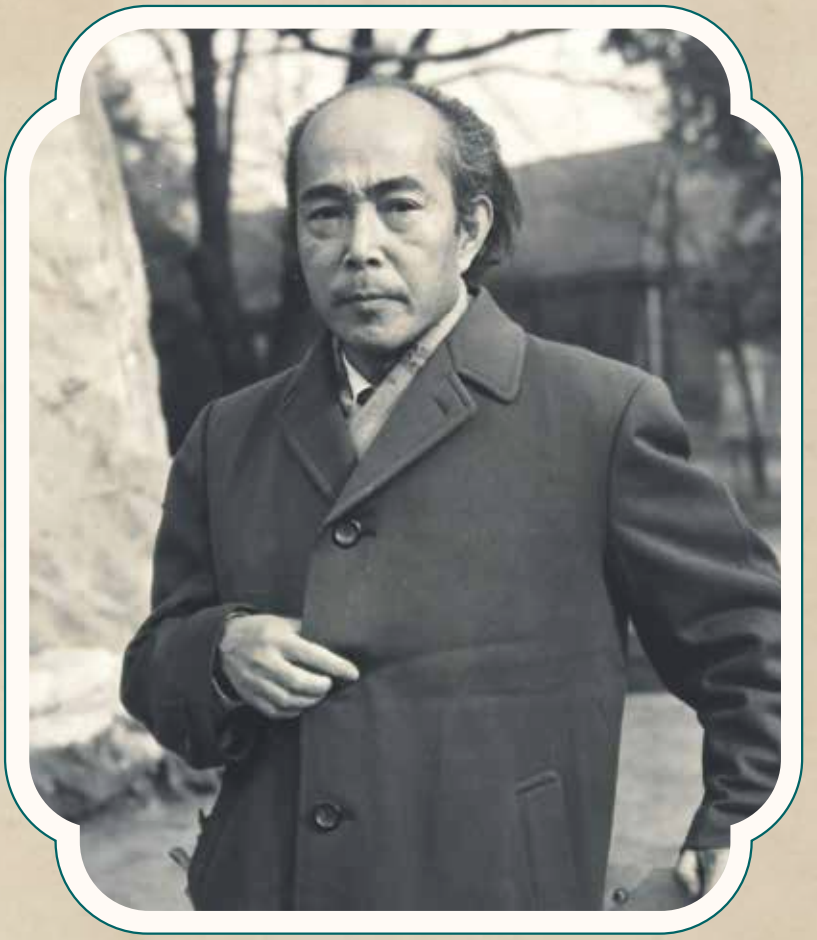
令和９年新春特別展

中村草田男

－明治は遠くなりにけり－



令和８年 12月19日（土）～
令和９年 2月15日（月）
休館日　火曜日（12月29日は開館）

開館時間　午前９時～午後５時
（展示室入場は午後４時30分まで）
会　場　松山市立子規記念博物館　３階特別展示室
観覧料　個人２５０円　団体２００円
65歳以上１２５円　高校生以下 無料

関連イベント

≪学芸員による関連講座≫
演題：「草田男と子規」
令和９年２月６日（土）午後２時～３時30分
１階視聴覚室　※聴講無料

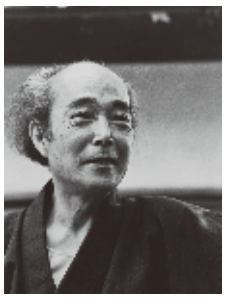
≪ギャラリートーク≫
令和８年12月26日（土）、
令和９年１月16日（土）※ともに午前10時から50分程度
３階特別展示室　※聴講には観覧券が必要

松山市立子規記念博物館　℡089－931－5566　〒790－0857　松山市道後公園１－30

令和９年新春特別展

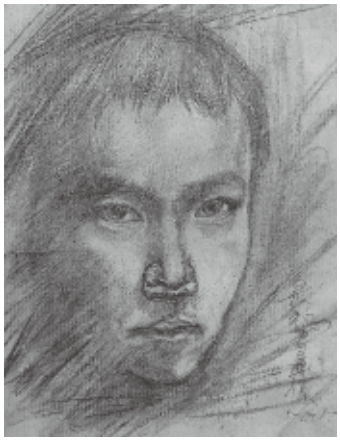
中村草田男

－明治は遠くなりにけり－



草田男

中村草田男は、松山に育ち、「人間探求派」の俳人として昭和の俳句界の中心となって活躍した人物です。本名を清一郎といい、1901（明治34）年、外交官だった父の赴任地である清国厦門に生まれました。3歳の年に帰国し、松山中学校から松山高等学校へ進学、伊丹万作や伊藤大輔らと回覧雑誌『楽天』『朱欒』での創作に熱中するなど、松山で多感な青春時代を過ごします。東京帝国大学に進学して正岡子規を研究、1929（昭和４）年に高浜虚子に師事して本格的に俳句を始めました。

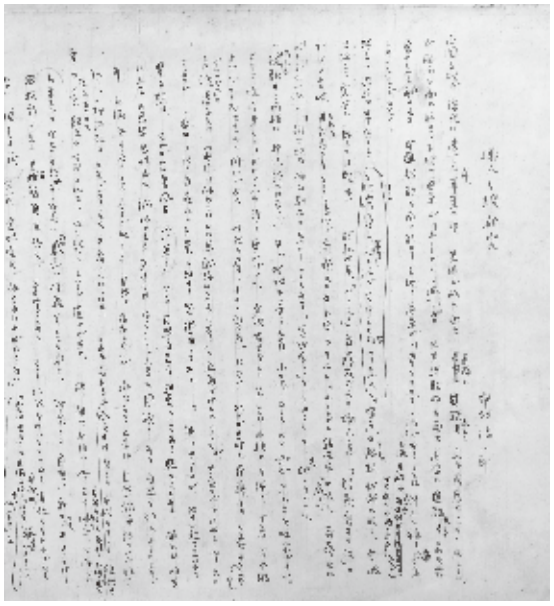


草田男画 自画像



草田男の主宰俳誌『萬緑』創刊号（昭和 21 年 10 月）

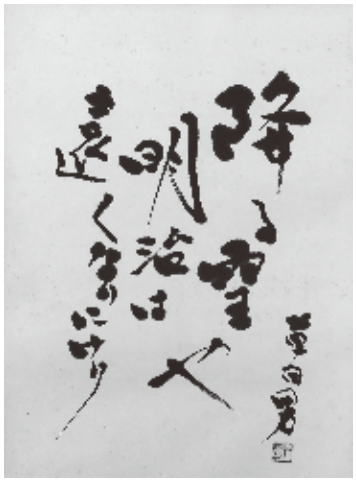
虚子の導きで俳誌『ホトトギス』で俳壇デビューを果たした草田男は、1936（昭和11）年に第１句集『長子』を、翌々年に第２句集『火の島』を刊行します。代表句「降る雪や明治は遠くなりにけり」「萬緑の中や吾子の歯生え初むる」はこの頃に誕生しました。また雑誌『俳句研究』での座談会をきっかけに、草田男は同郷の石田波郷、篠原梵らとともに「人間探求派」と称され、俳壇の新勢力として注目を集めました。



草田男草稿「俳人子規研究」

終戦後、草田男はいち早く俳壇の復興に取り組み、1946（昭和 21）年に主宰誌『萬緑』を創刊、翌年には石田波郷、西東三鬼らと現代俳句協会を設立し、現代に続く俳句界の基礎を作りました。一方、草田男の松山や子規への想いは晩年まで変わらず、何度も帰郷して講演活動や句会の指導を行い、さらに1981（昭和56）年４月の当館開館時には、開館記念全国俳句大会の兼題句選者を務めています。

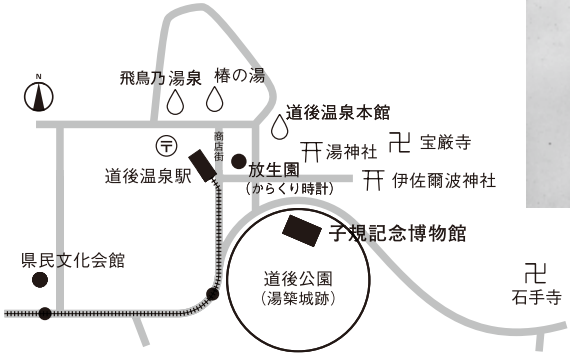
今年度、当館は新たに草田男自筆の俳句手帳や句集、写真など、数多くの資料を収蔵しました。今回の特別展では、草田男の活躍や人間性を物語る資料の数々を展示し、「人間探求派」と呼ばれ俳句界に一時代を築いた俳人・中村草田男の足跡を紹介します。



草田男句「降る雪や明治は遠くなりにけり」



草田男と妻・直子



交通案内：道後温泉駅より徒歩５分　道後公園駅より徒歩５分
＊公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

TEL089-931-5566　〒790-0857 松山市道後公園 1-30
https://shiki-museum.com